

NUM データサイエンス教育プログラム 自己点検・評価

○学内からの視点

	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	<p>NUM データサイエンス教育プログラムの中心科目である「人工知能論」は、令和2年度（2020年度）に開講された。また、令和3年度（2021年度）からは「コンピュータリテラシー入門」「データサイエンス入門」を開講した。情報リテラシーについては平成29年度（2017年度）以前より開講している。</p> <p>該当科目をすべて履修した者が本プログラムの履修者数であり、2021年度の履修状況および修了状況は以下のようになる。 経営情報学科：履修者数 72名 修了者数 64名（2022年度現在） スポーツマネジメント学科：履修者数 10名 修了者数 6名（2022年度現在）</p>
学修成果	<p>「人工知能論」については、期末評価の前にプレテストを行うことで、学生の学修成果の確保に努めている。</p> <p>「データサイエンス入門」については、各教員ごとに工夫を凝らしており、例えば教科書の内容をより簡潔にまとめたレジュメを配布するなどして、学生の理解度向上に努めている。</p> <p>こうした特長により、2021年度のプログラム適用科目の理解度は、「理解できた」「どちらかといえば理解できた」とする回答が、人工知能論は80%、データサイエンス入門が80%、情報リテラシーが100%、コンピュータリテラシー入門が86%と、いずれも高い割合を示した。</p> <p>また、2021年度のプログラム適用科目の総合評価（満足度と見なすことが可能）についても、「よい」「どちらかといえばよい」とする回答が人工知能論は90%、データサイエンス入門が70%、情報リテラシーが100%、コンピュータリテラシー入門が84%と、いずれも高い割合を示した。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>毎年、学期末の時期に授業評価アンケートを行っており、2021年度のプログラム適用科目の理解度は、「理解できた」「どちらかといえば理解できた」とする回答が、人工知能論は80%、データサイエンス入門が80%、情報リテラシーが100%、コンピュータリテラシー入門が86%と、いずれも高い割合を示した。</p>

<p>学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>現時点において、各授業の推奨度を直接測定する質問は実施されていないが、比較的高い総合評価（満足度）からある程度の推奨度は得られるものと考えられる。</p> <p>このため、授業評価アンケートに授業の推奨度を尋ねる質問項目を盛り込むなどの対策を検討している。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>経営情報学部で従来より必修としていた情報リテラシー、コンピュータリテラシー入門に加え、令和2年度より人工知能論を開講して経営情報学科において必修化、令和3年度よりデータサイエンス入門を開講して経営情報学科およびスポーツマネジメント学科で必修化してきた。令和3年度以降入学者向けの現行カリキュラムでは、既に、情報リテラシー、コンピュータリテラシー入門、データサイエンス入門は全学必修であり、人工知能論においても必修ではない学科の履修者も増加傾向であることから、学生全体に占める数理・データサイエンス・AI教育のリテラシーレベルの修得者・履修率は順調に増加している。</p> <p>今後は、人工知能論の全学生必修化を検討し、卒業生に占める数理・データサイエンス・AI教育リテラシーレベルの修得者の割合を90%以上にすることを検討していく。また、さらなる計画として、令和5年度入学者向け大学パンフレットに、データサイエンス系科目の紹介を掲載予定である。</p>

○学外からの視点

	<p>自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等</p>
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>本プログラムは令和3年度入学者に適用され、計70名の修了者が出ているが、いずれも現在2年生であり卒業はしていない。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本プログラムを含めた学部の正規の教育課程の編成にあたり、包括連携協定等を締結している地方自治体や複数の地元産業界等から意見を聴取している。</p> <p>さらに、毎年行っている企業アンケートの項目に加えるなどの対応も検討している。</p>